

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月
		○

<b>局名</b>	<b>保健福祉局</b>
-----------	--------------

<b>基本計画</b>	<b>柱</b>	いきいきと働く
	<b>大項目</b>	多様なニーズに対応した人材育成と就業支援の推進
	<b>取組みの方針</b>	若者・女性・中高年齢者などの就業支援

<b>担当局／総務担当課名</b>	<b>保健福祉局</b>	総務課
<b>連絡先</b>	582-2497	

■21年度計画

IV-3-(2)-②

<b>施策名</b>	<b>女性・中高年齢者などの雇用環境づくり</b>
------------	---------------------------

<b>施策の概要</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	すべての人がいきいきと働くことができる環境を整備するため、障害のある方への職業紹介や就業相談、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図り、障害のある方の就業を支援します。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	若者・女性・中高年齢者などの就業支援

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値		
	年度	平成19年度	計画	実績		年度	平成25年度	
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数		年度	平成19年度	計画	56 件	年度	平成25年度
	障害のある方の就業に関する指導・助言、訓練あっせん等を行う障害者しごとサポートセンターは就業支援の拠点施設であり、その利用者が就職した件数を当施策の指標としました。目標値は北九州市障害者支援計画実施計画(拡充版)によるものです。		現状値	53件	実績	71 件	目標値	71件
					達成度	126.8 %		
			年度		計画		年度	
			現状値		実績		目標値	
					達成度			
		年度		計画		年度		
		現状値		実績		目標値		
				達成度	%			
<b>コスト</b>	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度:執行額】				事業費	23,110 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	23,110 千円	2,946 千円	

■局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	<b>B</b>	障害者しごとサポートセンターについては、職場適応援助者(ジョブコーチ)を配置したことなどが功を奏し、厳しい経済情勢にもかかわらず、利用者の就職件数が計画値を大幅に上回りました。また、福祉施設から一般就労への移行件数も今年度37件と着実に増加しており、順調に推移しているといえます。
	<b>今後の局施策の方向性</b>	障害者しごとサポートセンターの利用や、福祉施設から一般就労への移行件数については、順調に実績があがっています。今後は、精神障害や発達障害のある就職困難者への支援の充実などにも取り組んでいくことが必要です。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

■ 評価担当部署の意見

<input type="checkbox"/> 適切な評価	<input checked="" type="checkbox"/> 下記のとおり
今後、利用者の就職件数に加え、相談者数や相談者に占める就職者の割合なども指標として検討する必要があります。	

施策名 **女性・中高年齢者などの雇用環境づくり**

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性		
	C時点【21年度:執行額】					—	—	21年度
	—	—	21年度					
障害者に対する就業支援事業			23,110 千円	2,946 千円	裁量的経費	—	—	ア
① 事業費のうち一般財源			23,110 千円					
			千円	千円				
② 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
③ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
④ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
⑤ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
⑥ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
⑦ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
⑧ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
⑨ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
⑩ 事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				

局施策全体のコスト	—	—	21年度	
			事業費	人件費(目安)
			23,110 千円	2,946 千円
施策全体の事業費のうち一般財源			23,110 千円	

局施策の 21年度評価	<b>B</b>	【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続
		○

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月
		○

担当局/課	保健福祉局	障害福祉課
連絡先	582-2424	

基本計画	柱	いきいきと働く
	大項目	多様なニーズに対応した人材育成と就業支援の推進
	取組みの方針	若者・女性・中高年齢者などの就業支援
	主要施策	女性・中高年齢者などの雇用環境づくり

関連計画	北九州市障害者支援計画実施計画
事業期間	平成19年度(精神障害者社会適応訓練:平成8年度)~
経費区分	裁量の経費

IV-3-(2)-②

事業名		障害者に対する就業支援事業	
【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	地域で自立して生活できる基盤整備
		成果	① ② 障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数 ③

目的実現の【手段】に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		当初計画	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:56件 福祉施設から一般就労への移行:30人	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:58件 福祉施設から一般就労への移行:39人	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:58件 福祉施設から一般就労への移行:48人	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:58件 福祉施設から一般就労への移行:48人		就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:58件 福祉施設から一般就労への移行:48人	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:58件 福祉施設から一般就労への移行:48人
実施状況	現状	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:71件 福祉施設から一般就労への移行:37人					就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:71件 福祉施設から一般就労への移行:39人	就職に関する指導・助言、職業訓練のあっせん、職業紹介の調整、職場開拓など センター利用者の就職:71件 福祉施設から一般就労への移行:48人	
		成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
		障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数				計画	56 件	年度	平成25年度
		就職件数を増加させるため、就業及び就業に伴う生活面に関する指導・助言をはじめ、基礎訓練や職場実習の調整・あっせん、職場定着支援の強化など本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓、地域における雇用拡大、企業の意識啓発に努めています。				実績	71 件	内容	センター利用者就職件数 58件
コスト	単年度計画	福祉施設から一般就労への移行件数				計画	30 人	年度	平成25年度
		障害者の地域生活移行を進めるため、就労移行支援事業所等の就労支援担当者を対象に懇談会を開催し、情報提供等を行うとともに、事業所等の利用者を対象に、就職に向けての取り組みについてのセミナーや実際の就労現場の見学会を開催します。				実績	37 人	内容	一般就労への移行 48人
		事業費				23,110 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
うち一般財源				23,110 千円		2,946 千円			

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	障害者しごとサポートセンターにおいて、就労企業の開拓や職場実習などにより就職を促進するとともに、職場定着支援を強化するため、新たに職場適応援助者(ジョブコーチ)を配置したことなどにより、厳しい雇用状況下において、当初目標を上回る就職件数を達成しました。また、就労移行支援事業所等の利用者を対象に、障害者職業訓練促進セミナーや見学会等を行いました。
------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	障害者の就職支援を行うとともに、企業において障害者雇用の理解が深まるように推進する当事業は、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託して実施し、障害者の経済的自立の促進を通じて、施策の実現に対し十分効果が得られており、極めて有効性が高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	センターの運営は、同様の機関である「北九州障害者就業・生活支援センター」を国・県から受託している「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託しており、2つのセンターが合同で活動することで高い効率性を獲得しています。また、関係機関(労働局・ハローワーク)と密に連携を図り、効果的・経済的な取組みに努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策の実現に対する影響はどうか。	4	厳しい雇用情勢の中、さらに一人でも多くの障害者が本人にあった仕事に就くことができるよう、今後も取組みを充実・強化していく必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	福祉・教育の実施主体である市が、労働局、ハローワーク等関係機関と密接な連携を図りながら、取り組むことが効果的です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	障害者しごとサポートセンターにおいては、事業目標を上回るペースで就職実績があがっていますが、厳しい経済情勢の中、関係機関との連携のもと、さらなる取組みの充実を図る必要があります。また、増加しつつある精神障害や発達障害のある就職困難者への対応の強化について、検討していくことが必要です。